

# 誰もが居場所と出番をもてる 明石市をめざして

神戸市看護大学  
船越 明子



# ひきこもり支援の対象者と目指す姿

厚生労働省. (2025). ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～ より

## ひきこもり支援の対象者

社会的に孤立し、孤独を感じている状態にある人や、様々な生きづらさを抱えている状態の人

★何らかの生きづらさを抱え生活上の困難を感じている状態にある

★家族を含む他者との交流が限定的(希薄)な状態にある

★支援を必要とする状態にある本人やその家族(世帯)。

その状態にある期間は問わない。

## ひきこもり支援の目指す姿

- 本人やその家族が、自らの意思により、今後の生き方や社会との関わり方などを決めていくことができる(自律する)ようになることを目標とする。
- 本人が社会参加を実現することや就労することのみを支援のゴールにはせず、自律に向かうプロセスとしてとらえることが必要。
- 支援者も本人やその家族も、ともに「自律」することができるよう、互いにプロセスを共有していく。



# 社会的孤立としてのひきこもり

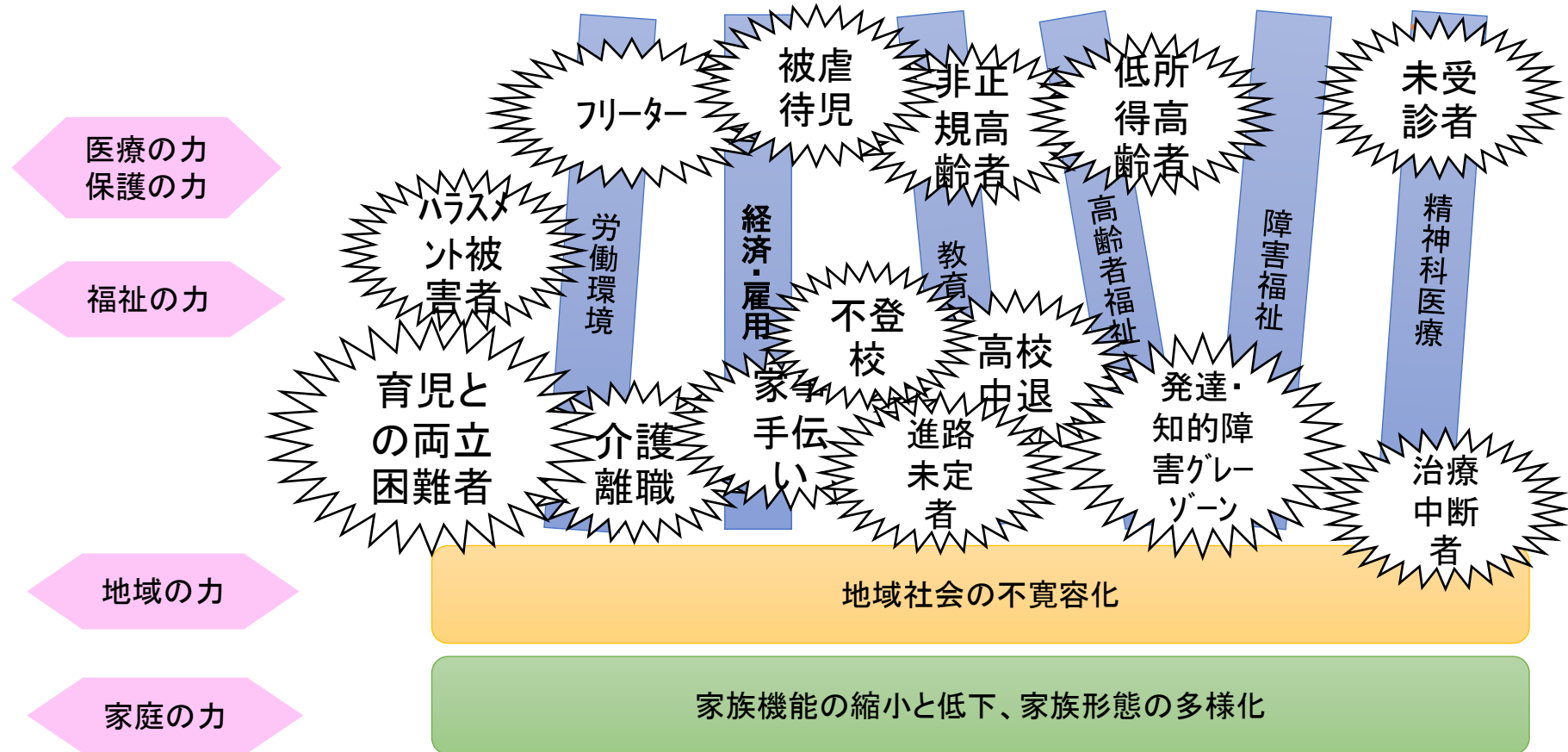
## ライフサイクルの各ステージにおける社会的孤立の例

ライフステージ	社会的孤立のかたち
幼児期	子ども虐待、ワンオペ育児、外国人
学童～青年期	不登校、ひきこもり、ヤングケアラー、ネット依存、いじめ、発達上の課題、自殺
成人期	ひきこもり、生活困窮、DV、心身の不調・治療拒否、ハラスメント被害、介護離職、自殺
老年期	閉じこもり、セルフ・ネグレクト、高齢者虐待、ゴミ屋敷、孤独死



# 社会保障制度の課題の顕在化

## 専門職チームによる伴走支援

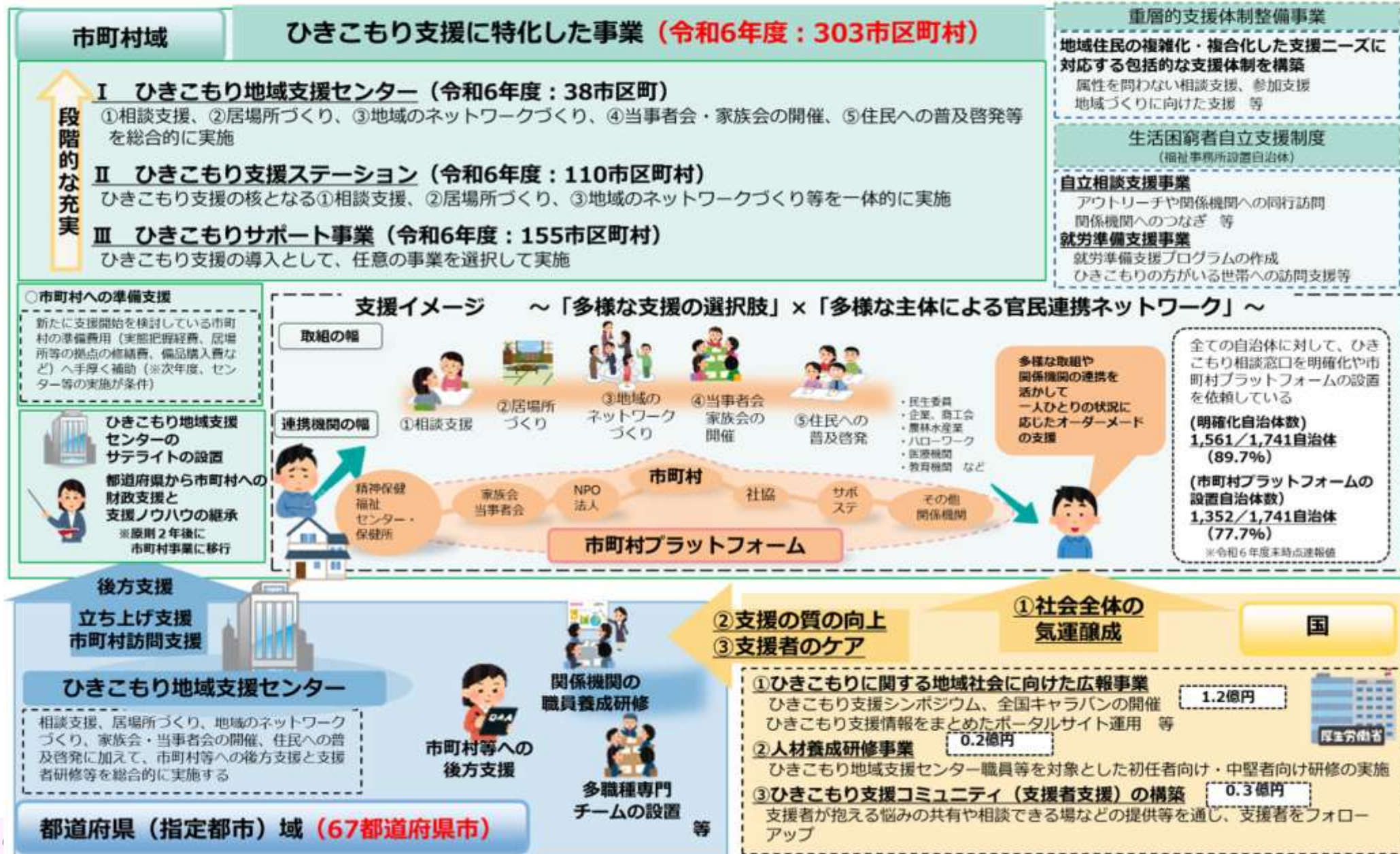




# 身近な基礎自治体におけるひきこもり支援の充実

令和7年度予算額 17.8億円 (令和6年度予算額17.6億円)

より身近な市町村域における相談窓口の設置と支援内容の充実を図り、これを都道府県がバックアップする体制を構築

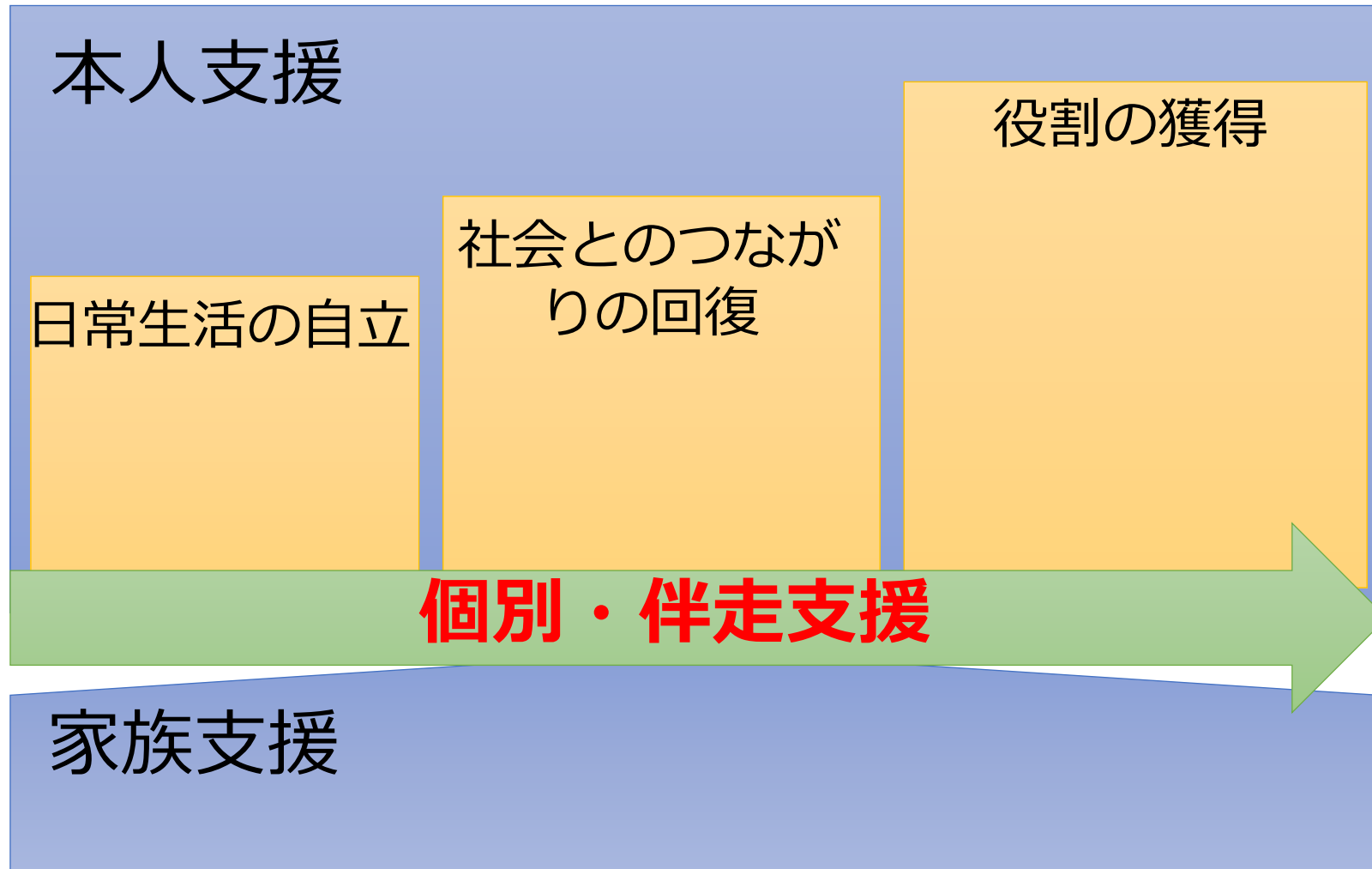


# 生活困窮者自立支援制度とひきこもり支援

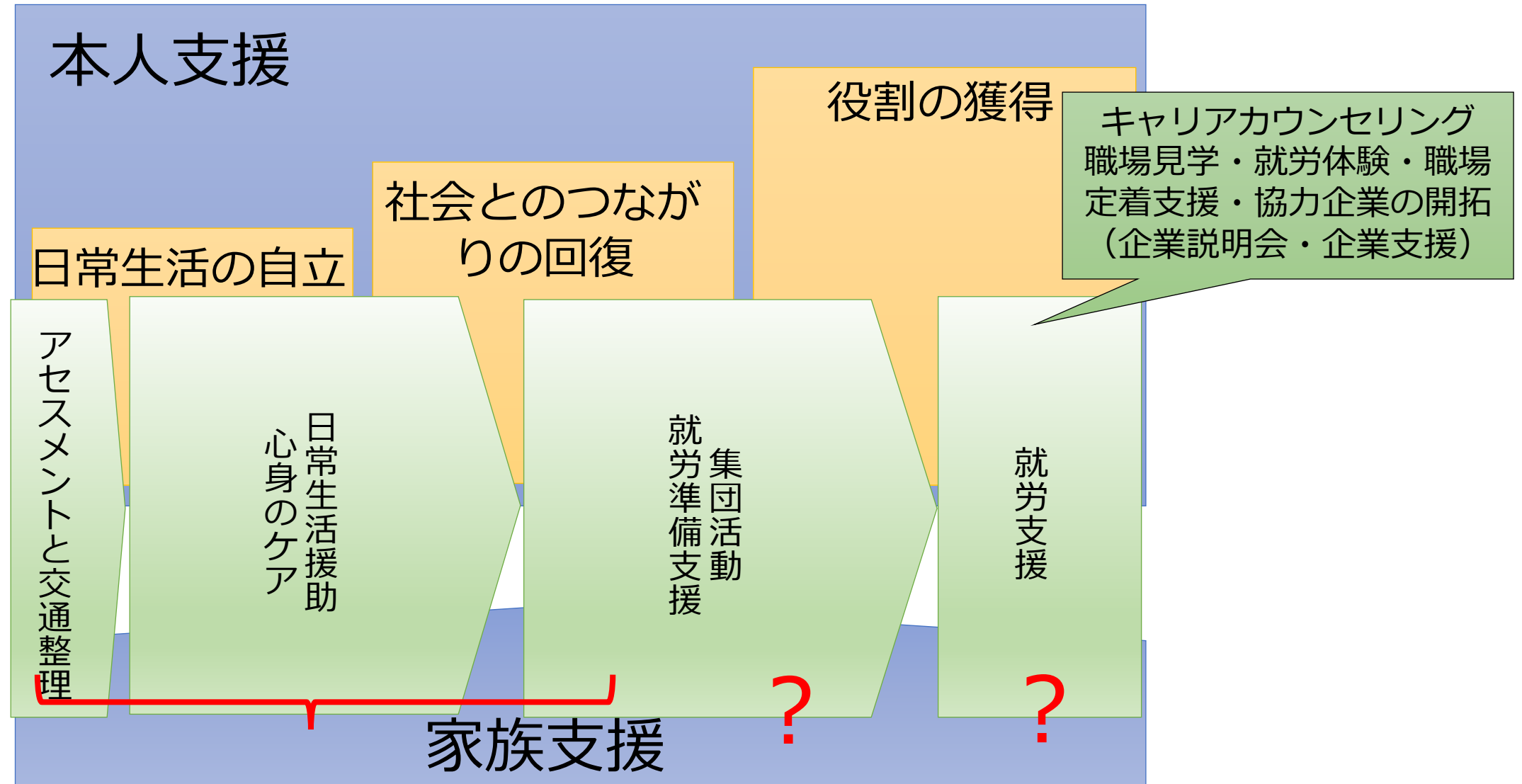
- 平成30年10月：生活困窮者自立支援法の改正→生活困窮者の定義の見直し  
【従前】現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなる**おそれのある者**  
【改正】就労の状況、心身の状況、**地域社会との関係性**その他の事情により、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなる**おそれのある者**
- 令和元年 5月28日川崎市、6月1日東京都練馬区での事件
- 「生活困窮者自立支援制度とひきこもり地域支援センター等との連携について」(平成 28 年 6 月 30 日付け社援地発 0630 第 1 号。厚生労働省社会・援護局地域福祉課長通知)
- 令和 7 年 4 月 1 日 上記の一部改正



# 社会的孤立状態にある人への支援のプロセス



# 社会的孤立状態にある人への支援のプロセス





# 社会とのつながりの回復に向けた支援

ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 家庭外の日中の活動の場に定期的に通うことができる</li><li>・ スタッフや他の利用者との相互交流ができる</li></ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 利用者のニーズにあわせた居場所の運営</li><li>・ 対人関係への支援</li><li>・ 本人の持っている力を引き出す</li><li>・ 自己決定への支援</li></ul>
主な方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 居場所、当事者会（自助）、ボランティア、習い事</li><li>・ 本人に対する個別相談</li><li>・ 家族に対する個別相談</li></ul>

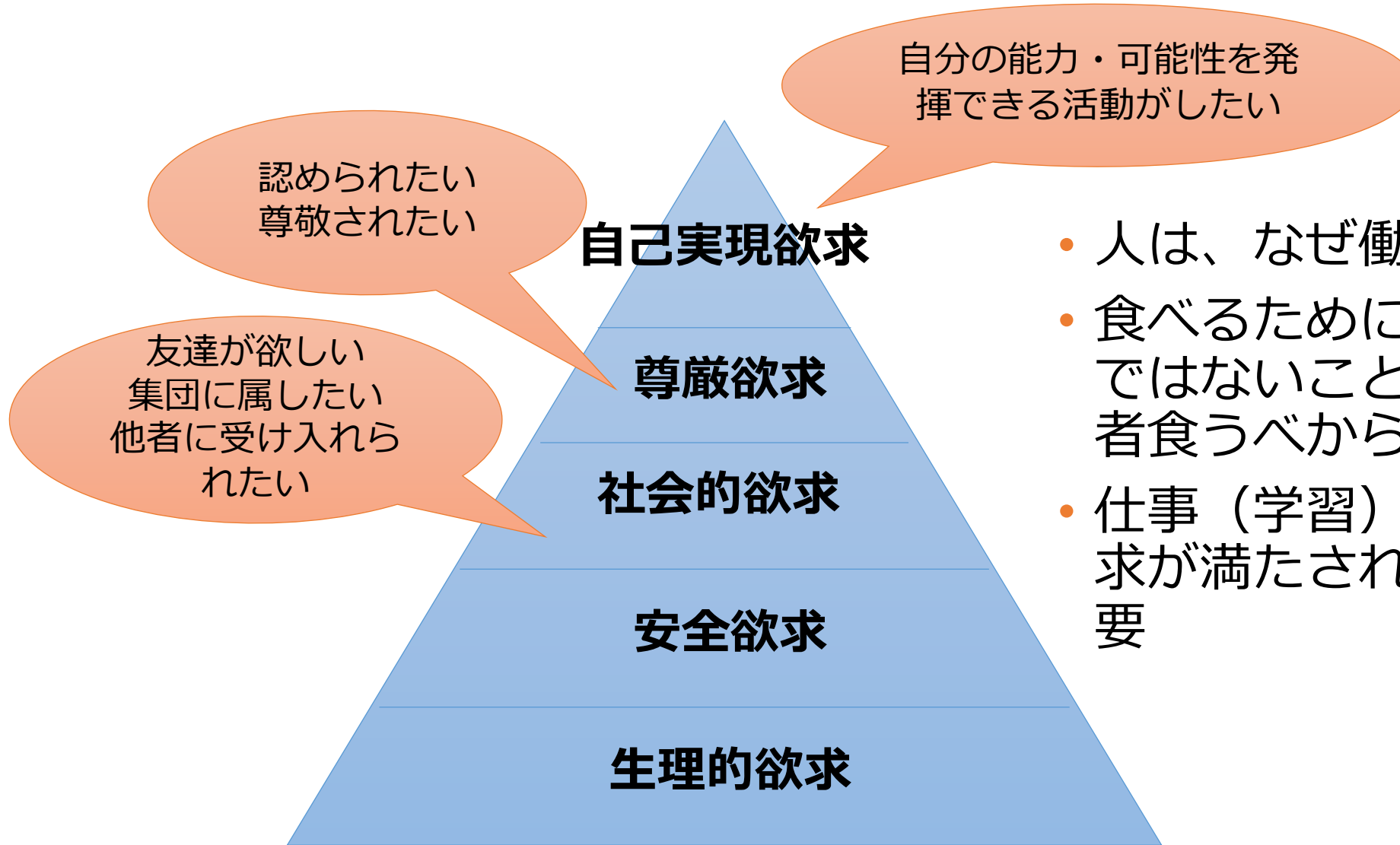


# 役割の獲得にむけた支援

ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の能力が発揮できる活動を行うことで、地域社会に居場所を獲得することができる</li><li>・ 必要に応じて様々な制度を利用し、経済的に自立できる</li></ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自己決定への支援</li><li>・ <b>就労支援</b>→就労先をみつけてつなぐ、一人のために仕事を作る、起業</li><li>・ 就労以外の自立の在り方を支援</li><li>・ 経済的自立のために必要な制度の利用を支援</li></ul>
主な方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 他機関とのネットワークによる支援</li><li>・ 本人に対する個別相談</li><li>・ 当事者会（自助グループ）</li></ul>



# 社会参加（就労・就学）への動機付け

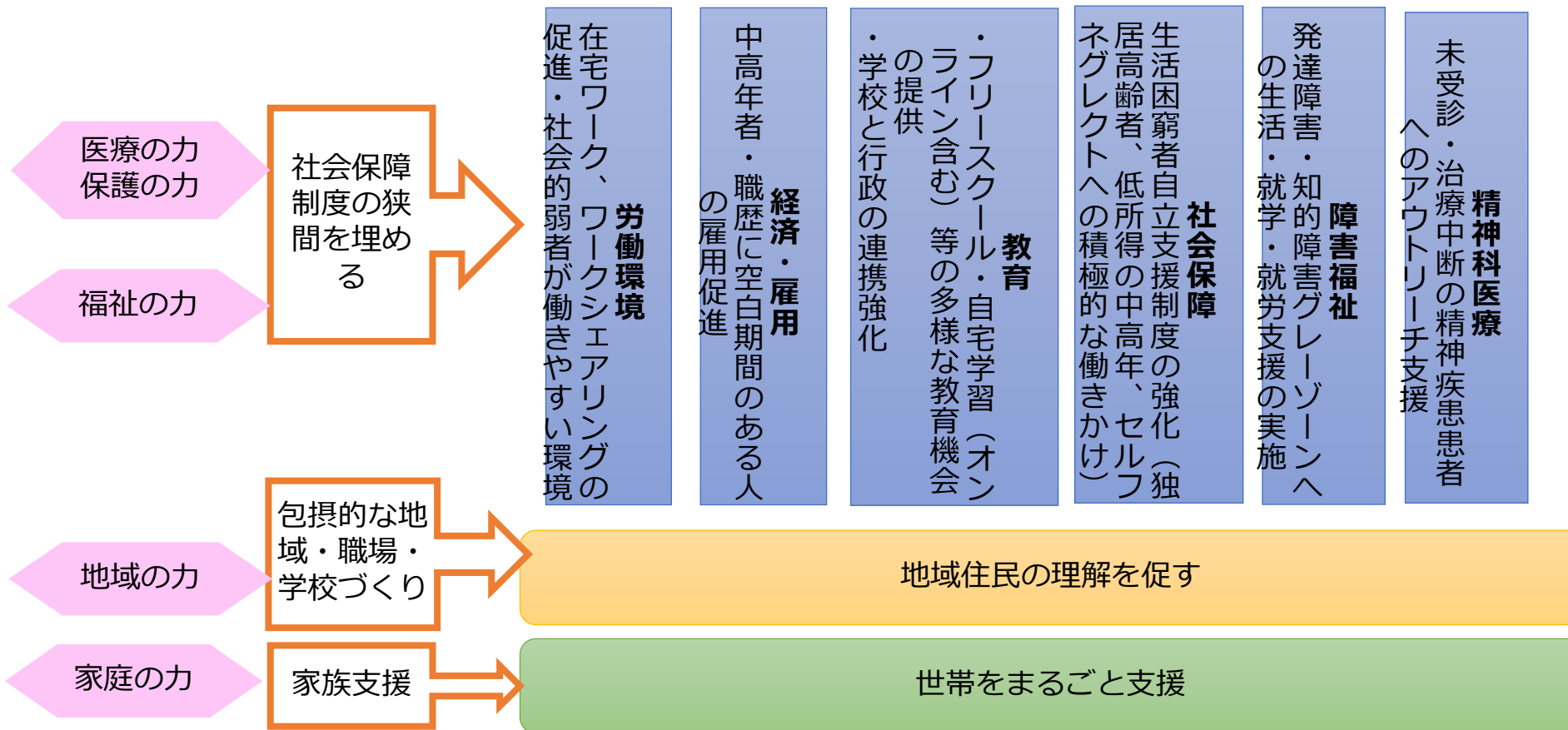


- 人は、なぜ働く（学ぶ）のか？
- 食べるために働く（学ぶ）わけではないことに注意→働かざる者食うべからずは通用せず
- 仕事（学習）を通して、尊厳欲求が満たされるような支援が必要

マズローの欲求段階

# 社会的孤立から社会的包摂へ ～どんな時でも自分の力を発揮できる社会へ～

## 専門職チームによる伴走支援



# 人の気持ちは大切だが、人の気持ちから働きかけてもうまくいかない

